

CARF-RIETI共催政策シンポジウム
金融危機と日本経済の行方
パネルディスカッション:コメント

東京大学大学院経済学研究科・
CARF

柳川 範之

日本の経済危機

- わが国の経済状況の悪化は「金融危機」だったのか？
- 実態は、外需の急激な減少による経済環境の悪化。
- 日本企業の収益構造の脆弱性、生産性の低さを反映した結果。
- だとすれば、それを本質的に解消しなければ日本経済の危機は去ったことにならない。

成長の重要性

- 少子高齢化の中、生産性を高めていく方策が不可欠。
- 「内需」拡大も重要だが、海外の需要を利用した成長も重要。
- アジア経済全体を「内需」と考え、アジア経済全体を視野においた制度づくりが不可欠。
- 広い意味での「雇用問題」によって、産業構造の転換が遅れている。
- 人材を収益性の高い産業に移動させる政策（人材教育に対する投資、産業政策）の必要性。

日本の金融危機はこれから？

- 国際的な変化の波に、日本の金融機関が十分に対応できているとはいえないのではないか。
- 幸い、今回の金融危機において日本の金融機関の傷は小さかった。
- しかし、日本の金融機関の収益性が高まった結果ではない。
- 根本的な問題が解決できているとはいえず、海外の金融機関の収益回復によって、むしろ将来の経営悪化の危険性がある。

金融規制の大きな変化

- 海外の金融規制は大きく変化しつつある。
金融産業全体に対する包括的規制
マクロプルーデンシャル政策
大きな介入権限
- 日本が、望ましい規制のあり方・方向性について、十分なイニシアティブをとれていない。
- 当然、日本の金融機関にも大きな影響が。
- 日本の金融機関が、変化にどう対処すべきかの戦略が不十分
- 日本の規制をどう対応させていくかの検討も不十分。